

* 島津製微小硬度計発見

またぞろ、基線尺倉庫を漁りに行った。基線尺倉庫の今や全くのゴミでしかないものを片付けることが目的で入り、重い顕微鏡のような形をしたものを見つけていたので運び出した。こういった古いものを保管している倉庫にあるものを全くのゴミと判断するには慎重な態度が必要である。今現在の、判断している人の価値観で決めてもらっては困ることが考えられるからである。ここ2回ほど筆者が完全にゴミと判断して廃棄物置場に運んだものは、金属製戸棚（所謂イトーキの戸棚のようなもの）の棚類、引き戸類、そして空っぽにした段ボール箱3個とその中に入っていたかなりの量の「モクメン」である。さて、読者は「モクメン」と言われてどんなものか想像できる人はかなりご年配であろう。筆者



写真1 発見された重厚な測定器

は「モクメ(木目)」といったと思ったが、木目ではどうも意味が通らないと考え、「木を細く切った緩衝材」と書こうとしたが、それではあまりに能がないし、物には「名前がある」と、識者に「なんて言ったっけ！昔、りんご箱に詰まっていた木を細く切ったもじゃもじゃは？」と尋ねてみた。と尋ねていると近くの若者にとって、今時はインターネットが辞書代わりである。「確か、モクメといったはず」という辺りで「モクメン(木綿)」を探し当てることが出来た。今回はモクメンが話題ではない。そのモクメンとともに段ボール箱に裸で詰め込まれていた重厚な顕微鏡のようなもの(写真1)を発見したのである。

この重い機械には、荷札(写真2)がぶら下がっており、「昭和55年 東京天文台 微小硬度計」と書かれている。製造者は島津製作所(写真3)となっている。

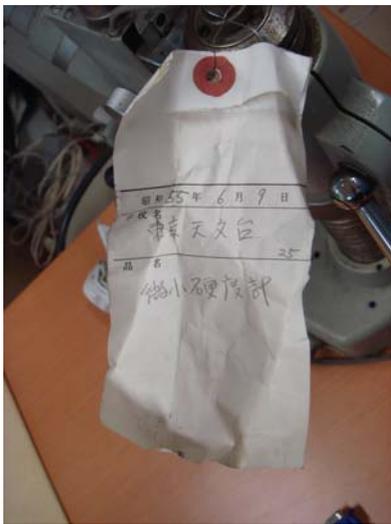


写真2 荷札



写真3 島津製作所の名盤

東京天文台で「硬度計」がどのような目的で使用されたかまったく想像できない。この器械を倉庫に入れた部署にいた者に尋ねても「全く、心当たりがない」とのことである。



写真4 ステージ部



写真5 コラム部

た。そのように天文台というところで使用目的がわからないものが時々発見される。ご

く普通の顕微鏡が発見されたこともある。

この「硬度計」はほぼ原形をとどめているようだが、いくつか部品がかけているように見える。電源コードも熱でプラグ部分が溶けているなど、相当に補修しなければ使えそうもないし、今時はインターネットで調べると「自動デジタル硬度計」というのが標準らしい。この器械が再び使用されることはないであろうが、アーカイブスの一つである。

硬度計というからには、ダイヤモンドの針で押えてどのくらいの深さの傷がつくかを測るものであろう。その心臓部が欠けているようだ。資料を挟む機構、XYステージ（写真 4）はかなり立派なものが着いているし、顕微鏡のコラム（写真 5）は相当に頑丈なものである。

このように、天文台での使用目的がわからないようなものをアーカイブして、この記事が多くの人目に触れ、情報が寄せられることを願っている。